


大阪市浪速図書館におけるSDGs学習会

<b>取組開始時期</b>	9月26日	<b>取組の カテゴリー</b>	⑪ 教育・研究	<b>応募部門 (○を付ける)</b>	○	<b>PF会員間連携部門</b>		<b>一般部門</b>
---------------	-------	----------------------	---------	-------------------------	---	------------------	--	-------------

<b>1. 団体名</b>	特定非営利活動法人 大阪環境カウンセラー協会	<b>2. 連携先 の団体</b>	◎大阪市(浪速区役所 浪速図書館)
---------------	---------------------------	-----------------------	-------------------

<b>3. 取組 目的</b>	浪速図書館が展開する図書展示「SDGs って何だろう」展の取組みの一つとして、区民の方にSDGsを自分事に置き換える学習会として「講話とたまねぎ染め体験」を実施する	<b>4. 関連する ゴール</b>	
---------------------	--	------------------------	---

**5. 取組経緯**

- ①大阪市浪速区の担当者より、浪速図書館のSDGs WEEKの取組みとして、講師依頼を受けました。
- ②打ち合わせにおいて、大阪市も地方創生SDGs官民連携プラットフォームに登録されていることから、連携事業に該当すると判断し、副読本の手配は、浪速区役所が行いました
- ③大阪環境カウンセラー協会は、かねてより、知的障害者の社会貢献を目指す取り組みを行ってきたので、今回活動に参加してもらいました。

**6. 取組概要（100字以内） ※ 1次選考にて、投票ページに掲載します**

いま話題のSDGsについて、一緒に考えたり、体験したりする事の意義を感じ、さやかな行動が日々の積み重ねによって、ゴールに近づくことを参加者全員で共有できました。

画像（会員投票の際のサムネイル）



**取組のポイント（3つの視点）**

**地方創生SDGsの視点**

- ①たまねぎの皮の染色液で、エコバックを製作する→レジ袋の削減
- ②親子または友達同士で、自分たちが行っているSDGsを考え、発表する。
- ③知的障がい者のスタッフ参加→障がい者の社会参加

**ステークホルダーとの連携**

- ◎大阪市浪速区役所→講師依頼。  
浪速図書館→実施場所の提供
- ◎大阪環境カウンセラー協会→講師派遣(玉ねぎ染め準備含)

**モデル性・波及性**

- ①社会事情について、雑談はあっても、話し合う機会が少ない日常において、自分事に換言することの大切さに気付く。
- ②年齢・性別など関係なく、退屈することなく、参加者全員で楽しみながら学ぶ
- ③他の自治体絡みの事業所から問い合わせがありました

## 7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

**【案内】**  
 SDGs 学習会  
 9月26日（日）午後2時～4時  
 (場所) 浪速図書館会議室  
 (定員) 親子、友たち6組(事前申込・先着順)  
 (参加費)無料  
 (持ち物)ハンカチ、(汚れが気になる方)エプロン  
 ※当日は、汚れてもよい服装でお越しください。

SDGs 学習会 本日のスケジュール	
14:00～14:30	玉ねぎ染エコバックづくりの準備、デザイン、染色液に浸す作業
14:30～15:00	SDGsのお話とクイズ
15:00～15:15	休憩とエコバック用の液をかき回す作業
15:15～15:30	親子で読もう SDGs!
15:30～16:00	エコバックの完成

本日の担当講師は茨城県産材センター 協会所属の環境カウンセラーです。  
 ○水曜 親子（みずも、えいこ）：読書  
 ○木曜 親子（いずみ、あつこ）：玉ねぎ染エコバック製造  
 ○金曜 親子（そたに、のりこ）：SDGsセミナー 読書  
※講師の都合により、お名前が変更される場合がございます。



**S**ustainable (サステイナブル)  
 = 持続可能な→〇〇し続けることができる

**D**evelopment (ディベロップメント)  
 = 開発→よりよい未来をつくる

**G**oals (ゴールズ)  
 = 目標→〇〇しよう

英語では複数形に「s」をつけます

- 【内容】**
- ①捨ててしまったまねぎの皮を使って作る世界で一つだけのエコバックを通して、海洋ごみ問題など循環型社会に誘う。
  - ②SDGsの解説を独立行政法人国際協力機構(JICA)からいただいた副読本「SDGs入門」を用いて、子どもに関係する項目に絞って行ったわ社会事情について、雑談はあっても、話し合う機会が少ない日常において、自分事に換言することに気づく。
  - ③年齢・性別など関係なく、参加者全員で多摩市見ながら学ぶ
  - ④いま話題のSDGsについて、一緒に考えたり、体験したりする事の意義を感じ、さやかな行動が日々の積み重ねによって、ゴールに近づくことを参加者全員で共有できました。

**【報告】**  
 コロナ禍で緊急事態宣言発令中にも関わらず、万全な感染防止の対策を講じて開催されました。参加者は、親子5組（内訳：小5、小4、10歳、3歳2組）と小5の男子が3名の13名の参加でした。  
 途中、浪花区の幡多区長にも飛び入り参加していただき、区長ご自身が目指す3つのゴールを伺いました。中でも「食べ残しをしないために1週間に1度は冷蔵庫を空にする日を設けている」ということで、「2番の飢餓をなくそう」に直結した回答を頂きました。  
 障がい者の方のスタッフ参加もあり、さやかな行動が日々の積み重ねによって、ゴールに近づくことを参加者全員で共有できた楽しい、ひと時でした。  
 保護者の方からは子どもと一緒に考えたり、体験したりする事の意義を感じていただけたようで、子どもたちからも「楽しかった」「面白かった」の声が多く、何より「わかりやすかった」という回答に講師陣は、安堵しました。17のゴールすべてをお話できなかったのは残念ですが、少しでも理解していただける機会を今後も作っていきたいと思っています。

